

安全性向上計画の取り組み

福知山線列車事故後、直ちにそれまでの取り組みを振り返り、反省すべき点や課題を踏まえ、より安全性を向上させるための課題を抽出し、できることから早急を実施すると決意を具体化したものが「安全性向上計画」です。

全40項目で構成する安全性向上計画の進捗状況は以下のとおりです。

| 項目 | 取り組み内容 |
|---|--|
| No.37 新幹線脱線対策 (2004年の新潟県中越地震時に発生した上越新幹線の脱線を踏まえた対策) | ・柱の中間部付近が拘束されている高架橋柱の対策実施(2006年3月) ・脱線防止対策として、地震計の増設、警報発信時間の短縮(2006年3月)地震計の置換工事の実施(2006年6月) ・活断層と交差するトンネルの耐震補強工事施工完了(六甲、福岡トンネル)(2007年12月) ・新大阪～姫路駅間の約110kmで「脱線防止ガード」の整備完了(2015年12月) 引き続き姫路～博多駅間の一部区間の約285kmに整備 |

◆これまでに制度や仕組みを確立して実施しており、その実施過程の中で必要な改善を行っていく項目

- No.01 緊急安全ミーティングの実施による「安全最優先」の意識醸成/(2005年6月)「安全ミーティング」と改称、継続して役員らと現場社員との意見交換などを実施
- No.02 わかりやすく使いやすいマニュアルへの改善/(2007年11月)必要により継続的なマニュアルの見直し
- No.03 ヒューマンエラーのうち、事故に至らない軽微な事象(=「事故の芽」)を自ら進んで報告できる環境作り/(2005年6～8月)「事故の芽」の報告内容をマイナス評価の対象から除外することについて周知、(2005年9月)「事故の芽」の報告方法・様式を策定、(2006年5月)「事故の芽」報告フォーマットや報告基準などの見直しを実施、(2007年9月)「安全報告」への名称変更を実施
- No.04 予兆管理活動の重要性について、全社員への意識付けによる定着と拡大/(2005年10月)支社担当者に対する分析手法などについての教育を実施、予兆管理の取り組みを継続して実施
- No.05 管理者教育カリキュラムへのコーチングの導入/(2005年6月)係長以上の全管理職にコーチング研修の実施、新任者に対して継続実施
- No.06 規程・マニュアルの解釈、根拠、作成時の背景に至る教育/(2005年8月)教材を整備し、毎年度、集合研修において教育実施
- No.07 鉄道システムの全体像を理解させる仕組み作り/(2005年8月)鉄道システム全体の基礎教材を作成し、新入社員研修などの集合研修で活用
- No.08 乗務員に対する「職責の重要性」「基本動作・法令の遵守」の再徹底/(2005年10月)再徹底教育実施、指導要領を見直し、年間教育の中で継続実施
- No.09 新任運転士に対する、新たな研修制度の設置(3ヶ月後～2年後研修など)/(2005年7月)研修制度確立(3、6ヶ月、1、2年後のフォロー研修)、継続実施
- No.10 全乗務員に対する3～5年毎の研修センターでの指導員による教育/(2006年4月)研修制度確立(乗務員定期研修)、継続実施
- No.11 指導体制の充実(本社・支社への指導員の配置、現場指導員の増強)/(2005年6月)指導員24名配置、(2005年6月)現場指導員50名配置
- No.13 事故の種別や原因などに応じた教育内容・体制・期間などの設定/(2005年7月)事故再発防止教育要領策定、逐次教育実施
- No.14 階層別・職能別研修に「安全」に関するカリキュラムを設定/(2005年6月)階層別・職能別研修の各研修において安全教育実施
- No.15 職場内教育で、実践的な教育訓練を反復実施/(2006年4月)整備すべき教育体制の決定、教育継続実施
- No.17,21 社長および社長特別補佐による、現場実態調査と、問題点の解決指示/(2005年6月)社長特別補佐(安全統括管理者補佐)着任、現場との意見交換実施
- No.18 セーフティマネジメント会議の開催および安全推進会議での事故防止対策への反映/(2005年6月)セーフティマネジメント会議(週1回)、安全推進会議(月1回)継続実施
- No.19 連絡・指示・復唱の確実な実行の徹底と、相互チェックリストの整備/(2006年4月)チェックリストを整備し実行中、(2007年5月)「確認会話事例集」を配付し各箇所で活用
- No.20 現場からの申告が必ず支社長に伝わる仕組みのルール化/(2006年4月)制度確立、継続実施
- No.22 鉄道本部内の各部をリード・統括する企画機能の充実、強化/(2005年9月)安全推進部課制導入、(2006年6月)安全関連投資の計画・実行機能を総合企画本部から鉄道本部に移管
- No.23 事故原因の背後要因まで分析し再発防止策を策定する機能の強化/(2005年7月)「事故の芽」の原因などを分析する専任グループの新設、(2007年8月)多面的分析手法の導入
- No.24 安全諮問委員会の開催/(2007年7月)最終報告書を取りまとめ、提言いただいた施策を実行
- No.25 重大事故発生時のマニュアル整備(お客様対応を迅速にするため設備や携行品、マニュアルを整備、改正し訓練を実施)/(2005年8月)本社・支社の「鉄道事故及び災害応急処置要項」および各職場のマニュアル改正、これに基づき訓練を実施済み、以降継続実施、(2006年12月)AED設置
- No.27 一斉放送の見直しによる重大事故など発生時の速報体制の整備/(2005年5月)指令からの伝達内容見直し、(2005年10月)一斉放送設備整備
- No.30 実態にあわせた停車時分・余裕時分設定によるダイヤの見直し/(2005年10月)阪和、大和路、JR宝塚線などの一部列車の時分見直し、(2006年3月)ダイヤ改正実施
- No.34 電気・土木・保線などの諸設備および車両の老朽取替の実施前倒し/2005年度～計画に基づき実施
- No.40 社員アンケートの実施、職場ごとの討議、有識者のインタビュー、労使安全会議での意見交換などを実施/(2005年9～11月)社員アンケート、職場におけるグループディスカッション、安全諮問委員など社外有識者へのインタビューを実施、(2006年3月)社員アンケートなどの集約結果を社員にフィードバックし、一人ひとりの考えをもとに社員間で再度議論を行い、新たな「企業理念」を制定

◆工事や設備など、当初計画に基づき整備した項目

- No.12 支社に研修センター分室の設置/(2005年7月)分室設置、(2006年8月)シミュレータ等設置
- No.16 実設訓練センターや各種シミュレータ、コンピュータ支援教育(CAI)などの改良および拡充/(2006年8月)新幹線運転士用、(2006年10月)在来線運転士用、(2007年1月)車掌用導入
- No.26 指令情報の早期伝達をめざした現場長などへの携帯端末の配備/(2005年7月)携帯電話端末配備
- No.28 ATS-SW(曲線用)の整備/(2006年3月)整備(曲線用1,234箇所)
- No.29 ATS-SW(分岐器用、行き止まり線用)の整備/(2007年3月)整備(分岐器用1,018箇所、行き止まり線用57箇所)
- No.31,32 ATS-P型の整備/(2006年12月)大和路線[加茂～王寺]、(2007年3月)阪和線[日根野～和歌山]、(2008年4月)奈良線[京都～木津]、(2009年2月)宝塚線[新三田～篠山口]、(2009年7月)山陽線[網干～上郡]、(2011年1月)嵯峨野線[京都～園部]、(2011年3月)湖西線[山科～近江塩津]、(2011年11月)学研都市線[木津～京田辺]、(2012年9月)北陸線[米原～長浜]使用開始
- No.33 運転状況記録装置の整備/(2013年12月)整備完了
- No.35 京阪神地区に予備車を配置/(2007年3月)予備車増備
- No.36 耐震補強工事/新幹線および湖西線などの高架橋に対する耐震補強工事を実施
- No.38 防災対策/斜面カルテ調査などによる斜面对策を実施
- No.39 踏切保安設備の保安度向上の実施前倒し/踏切保安設備の制御回路の機能向上などを実施

※「安全性向上計画」の概要は当社ホームページ(<http://www.westjr.co.jp/>)に掲載しています。
※「No.」は安全性向上計画(全40項目)の項目番号です。